

# くれしん景況レポート



平成 22 年 7 月 16 日 発行  
呉信用金庫 経営企画グループ

**2010 年 4～6 月期の当地企業の業況判断は製造業、非製造業とも小幅後退し、他地域との格差が拡大したが、来期は小幅改善の見通し。**

このレポートは、当金庫が取引先企業 342 社の平成 22 年 4～6 月期の業況判断と平成 22 年 7～9 月期の見通しを調査したものです（調査の概要は 2 ページ参照）。

## 1. 概況

### 【業況判断DIの概要】

(単位：%ポイント)

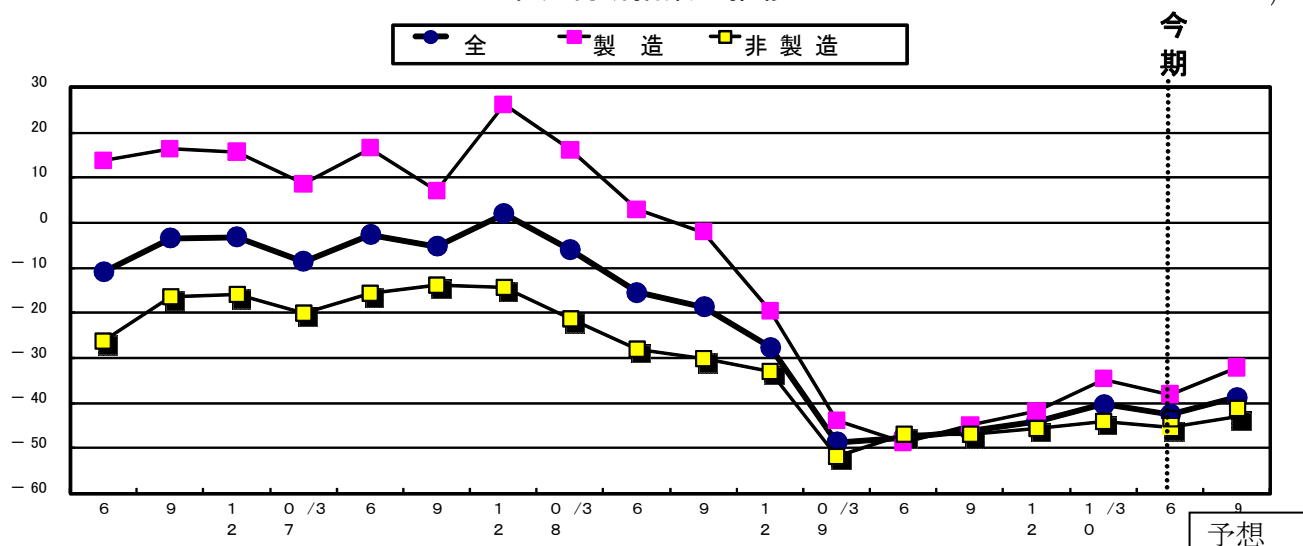
	前期 (1～3 月)	今期 (4～6 月) (カッコ内は前期の予想)		前期比	予想比	来期予想 (7～9 月)	前期比
		(△38.7)	△42.4				
全 体 (342 社)	△40.2	(△38.7)	△42.4	- 2.2	- 3.7	△38.6	+ 3.8
製 造 業 (137 社)	△34.6	(△33.8)	△38.0	- 3.4	- 4.2	△32.1	+ 5.9
非製造業 (205 社)	△44.0	(△42.9)	△45.4	- 1.4	- 3.4	△42.9	+ 2.5

- 当地企業の今期 (4～6 月) の業況判断DIは、製造業、非製造業ともに前期の改善予想に反して前期比マイナスとなり、全体では△42.4 (前期比-2.2ポイント) と5期振りに後退しました。

もっとも、回答項目別の構成比を見ると (2 ページ参照)、全体では「やや悪い」が前期比+5.9ポイント増えたものの、「悪い」は前期比-3.8ポイント減少しており、さらに「良い」も前期比+0.6ポイント増加するなど、内容的には改善傾向も見られます。これは、原材料価格の上昇などの不安材料を抱えながらも、売上高が改善傾向を示していることによるものと思われます (詳細は後述)。

- 来期 (7～9 月) は、製造業が前期比+5.9ポイント、非製造業も前期比+2.5ポイントの改善を見込んでいます。ただ、「良い、やや良い」と見る先は今期に比べ減少しており、力強さは感じられません。

業況判断指数の推移



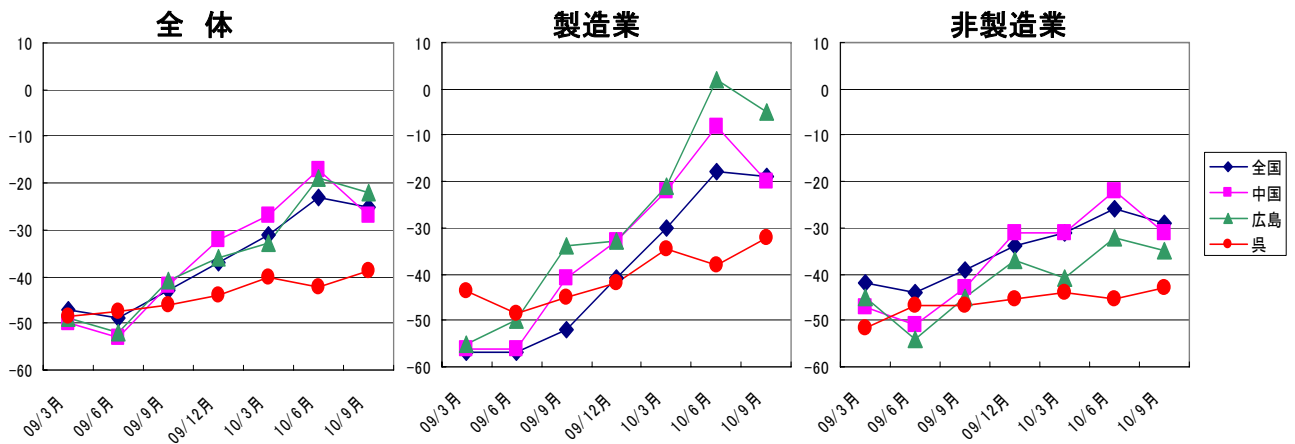
		前期 (1~3月)	今期 (4~6月)				来期予想	
			(カッコ内は前期の予想)		前期比	予想比	(7~9月)	前期比
全体	良い	1.2	( 0.3 )	1.8	0.6	1.5	1.2	▲ 0.6
	やや良い	7.7	( 7.1 )	7.0	▲ 0.7	▲ 0.1	6.7	▲ 0.3
	普通	42.0	( 46.4 )	40.1	▲ 1.9	▲ 6.4	45.0	5.0
	やや悪い	33.3	( 32.4 )	39.2	5.9	6.8	36.0	▲ 3.2
	悪い	15.8	( 13.7 )	12.0	▲ 3.8	▲ 1.7	10.5	▲ 1.5
製造業	良い	2.2	( 0.7 )	2.2	—	1.5	2.9	0.7
	やや良い	10.3	( 11.0 )	9.5	▲ 0.8	▲ 1.5	8.0	▲ 1.5
	普通	40.4	( 42.6 )	38.7	▲ 1.8	▲ 4.0	45.3	6.6
	やや悪い	34.6	( 35.3 )	39.4	4.9	4.1	35.8	▲ 3.6
	悪い	12.5	( 10.3 )	10.2	▲ 2.3	▲ 0.1	7.3	▲ 2.9
非製造業	良い	0.5	( 0.0 )	1.5	1.0	1.5	0.0	▲ 1.5
	やや良い	6.0	( 4.5 )	5.4	▲ 0.6	0.9	5.9	0.5
	普通	43.0	( 49.0 )	41.0	▲ 2.0	▲ 8.0	44.9	3.9
	やや悪い	32.5	( 30.5 )	39.0	6.5	8.5	36.1	▲ 2.9
	悪い	18.0	( 16.0 )	13.2	▲ 4.8	▲ 2.8	12.7	▲ 0.5

### 【当地企業の景況の特徴】

- 日銀短観の中小企業調査と比較すると（下図）、今期の全体の業況判断DIは全国（+8ポイント）、中国地方（+10ポイント）、広島県（+14ポイント）とも4期連続で改善したのに対し当地の企業は後退しており、格差が一段と拡大しました。

とくに広島県の製造業の業況判断DIは今期+23ポイント改善してプラスに転じており（+2）、その背景としては自動車関連の回復（大企業、中堅企業も含めた広島県の自動車関連の業況判断DIは+58）が牽引役となっていますが、当地の製造業にはその効果が十分波及していないものと思われます。

- なお、来期については全国、中国地方、広島県とも製造業、非製造業ともに後退に転じると見込んでいるのに対し、当地は改善を見込んでいることから、その格差はやや縮小する見込みです。



#### 【調査概要】

1. 調査時点 平成22年6月上旬
2. 調査対象 当金庫取引先企業 342社（業種別の内訳についてはP3参照）
3. 調査方法 所定の調査表と聞き取りによる企業への調査
4. 分析方法 この調査では、傾向を見る方法の一つとして、DI(Diffusion Index)を使用しています。DIとは、景況が「普通」とした企業を除いて「良い」「やや良い」とみる企業の全体に占める構成比から「悪い」「やや悪い」とみる企業の構成比を差し引いて、時系列に景気 directional (上向いているか、下向いているか) をみる指標です。

[例] 次の場合、DIは 30(%) - 20(%) = 10(%) となり、改善傾向にあることを示しています。

良い、やや良い	普通	悪い、やや悪い
30%	50%	20%

## 2. DI分析による業種別業況判断

○ 業種別の業況判断DI（4ページ参照）をみると、製造業では、食料品とその他（鉄鋼、繊維、木材、窯業等）が10ポイント以上後退。また、前期に業況判断DIが大幅改善（ $\Delta 29.4 \rightarrow +20.0$ ）した自動車関連も小幅後退（ $-1.2$ ポイント）に転じましたが、水準的には好調を維持しています。

一方、非製造業では不動産業が前期比 $+25.0$ ポイント改善して $+8.3$ となりましたが、対象先が12社と少なく、うち過半数の7社が「普通」で、「良い、やや良い」は3社、「悪い、やや悪い」は2社に過ぎないため、振れ幅が大きくなっています。

来期の予想については、製造業では船舶が大幅に後退（前期比 $-23.5$ ポイント）するものの、自動車が再び改善し（同 $+12.4$ ポイント）、一般機械器具やその他も改善を見込んでいます。また、非製造業では、今期小幅後退した卸売業（前期比 $+13.4$ ポイント）と建設業（同 $+11.4$ ポイント）が改善を予想しています。

## 3. 業種別売上DI及び収益DIの推移

○ 売上DIと収益DI（「増加」、「やや増加」-「減少」、「やや減少」）を見ると、製造業では前期に売上DIが大幅に改善（ $\Delta 52.9 \rightarrow 0.0$ ）した輸送用機械器具で、今期は収益DIが大幅に改善したほか、一般機械器具でも今期から来期にかけて売上DIが大幅に改善し（前期比 $+18.7 \rightarrow +37.5$ ポイント）、その結果来期は収益DIも前期比 $+43.8$ ポイントと大幅に改善する見通しです。

一方、非製造業では、今期の売上DIがサービス業（前期比 $+23.4$ ポイント）、卸売業（同 $+17.7$ ポイント）、不動産業（同 $+16.7$ ポイント）で大幅に改善しており、その結果収益DIも、今期はサービス業（前期比 $+25.6$ ポイント）と卸売業（同 $+14.6$ ポイント）、来期は不動産業（同 $+8.3$ ポイント）で収益改善を見込んでいます。また、建設業では来期に売上DI（前期比 $+41.5$ ポイント）と収益DI（同 $+30.2$ ポイント）の大幅改善を見込んでいます。

業種	売上DIの推移					収益DIの推移				
	前期 1~3月 実績	今期 4~6月実績見込 (前期比)	来期 7~9月見通し (今期比)	前期 1~3月 実績	今期 4~6月実績見込 (前期比)	来期 7~9月見通し (今期比)				
全体	$\Delta 34.5$	$\Delta 28.4$ 6.1	$\Delta 18.7$ 9.7	$\Delta 36.9$	$\Delta 28.7$ 8.2	$\Delta 20.8$ 7.9				
製造業	$\Delta 31.6$	$\Delta 25.5$ 6.1	$\Delta 21.2$ 4.3	$\Delta 34.6$	$\Delta 23.4$ 11.2	$\Delta 20.4$ 3.0				
食料品	$\Delta 17.6$	$\Delta 23.5$ -5.9	$\Delta 11.8$ 11.7	$\Delta 11.8$	$\Delta 23.5$ -11.7	$\Delta 23.5$ 0.0				
金属製品	$\Delta 36.4$	$\Delta 42.9$ -6.5	$\Delta 38.1$ 4.8	$\Delta 31.8$	$\Delta 38.1$ -6.3	$\Delta 28.6$ 9.5				
一般機械器具	$\Delta 75.0$	$\Delta 56.3$ 18.7	$\Delta 18.8$ 37.5	$\Delta 68.8$	$\Delta 68.8$ 0.0	$\Delta 25.0$ 43.8				
輸送用機械器具	0.0	$\Delta 8.6$ -8.6	$\Delta 14.3$ -5.7	$\Delta 20.6$	0.0 20.6	$\Delta 14.3$ -14.3				
その他	$\Delta 42.6$	$\Delta 20.8$ 21.8	$\Delta 22.9$ -2.1	$\Delta 42.6$	$\Delta 18.8$ 23.8	$\Delta 18.8$ 0.0				
非製造業	$\Delta 36.5$	$\Delta 30.2$ 6.3	$\Delta 17.1$ 13.1	$\Delta 38.5$	$\Delta 32.2$ 6.3	$\Delta 21.0$ 11.2				
卸売業	$\Delta 31.0$	$\Delta 13.3$ 17.7	$\Delta 10.0$ 3.3	$\Delta 37.9$	$\Delta 23.3$ 14.6	$\Delta 16.7$ 6.6				
小売業	$\Delta 36.5$	$\Delta 37.5$ -1.0	$\Delta 31.3$ 6.2	$\Delta 36.5$	$\Delta 39.1$ -2.6	$\Delta 32.8$ 6.3				
建設業	$\Delta 42.3$	$\Delta 50.9$ -8.6	$\Delta 9.4$ 41.5	$\Delta 50.0$	$\Delta 52.8$ -2.8	$\Delta 22.6$ 30.2				
不動産業	$\Delta 16.7$	0.0 16.7	0.0 0.0	0.0	0.0 0.0	8.3 8.3				
サービス業	$\Delta 38.6$	$\Delta 15.2$ 23.4	$\Delta 15.2$ 0.0	$\Delta 38.6$	$\Delta 13.0$ 25.6	$\Delta 13.0$ 0.0				

【DI分析による業種別業況判断一覧表】

(単位:%ポイント)

業種	有効回答数	業況判断(DI)の推移			判 断			
		前期 〔1~3月〕	今期 〔4~6月〕	来期予想 〔7~9月〕	今期 / 前期	傾向	来期 / 今期	傾向
全体	342	△40.2 ( 3.8 )	△42.4 ( △2.2 )	△38.6	小幅後退		小幅改善	
製造業	137	△34.6 ( 7.2 )	△38.0 ( △3.4 )	△32.1	小幅後退		小幅改善	
食料品	17	△17.6 ( △5.8 )	△29.4 ( △11.8 )	△35.3	後退		小幅後退	
金属製品	21	△59.1 ( 0.9 )	△52.4 ( 6.7 )	△42.9	小幅改善		小幅改善	
一般機械器具	16	△68.8 ( 6.2 )	△68.8 ( 0.0 )	△56.3	横這い		改善	
輸送用機械器具	35	△5.9 ( 23.5 )	△2.9 ( 3.0 )	△8.6	小幅改善		小幅後退	
うち船舶	17	△18.7	△17.7	△41.2	小幅改善		大幅後退	
自動車	16	20.0	18.8	31.2	小幅後退		改善	
その他	48	△38.3 ( 4.3 )	△50.0 ( △11.7 )	△35.4	後退		改善	
非製造業	205	△44.0 ( 1.5 )	△45.4 ( △1.4 )	△42.9	小幅後退		小幅改善	
卸売業	30	△41.4 ( 12.2 )	△46.7 ( △5.3 )	△33.3	小幅後退		改善	
小売業	64	△41.3 ( 4.7 )	△42.2 ( △0.9 )	△45.3	ほぼ横這い		小幅後退	
建設業	53	△55.8 ( △4.9 )	△64.2 ( △8.4 )	△52.8	小幅後退		改善	
不動産業	12	△16.7 ( 0.0 )	8.3 ( 25.0 )	△8.3	大幅改善		後退	
サービス業	46	△43.2 ( △1.9 )	△41.3 ( 1.9 )	△43.5	小幅改善		小幅後退	
うち個人消費関連 食料品製造業 小売業・サービス業	127	△38.7 ( 1.0 )	△40.2 ( △1.5 )	△43.3	小幅後退		小幅後退	

( )内は前回調査比

## 4. 設備投資の動き

○ 設備適正度（「過剰」、「やや過剰」－「不足」、「やや不足」）は、製造業においては金属製品（+9.5）で過剰感が残るものの、食料品（△23.5）や業況が大幅に改善している自動車関連（△11.4）で不足感が強まっており、来期は一般機械器具においても不足感が強まる見通しです（△12.5）。

もともと、設備投資実施（予定）企業の割合は、不足感が強まっている食料品で「0」となったほか、他の業種でも今期、来期ともに前期とほとんど変わっておらず、総じて慎重な姿勢が窺えます。

一方、非製造業ではいずれの業種もほぼ適正な水準で推移していますが、建設業において設備投資実施（予定）企業の割合が増えています。

業種	設備適正度DIの推移					設備投資実施(予定)企業の割合				
	前期 1～3月 実績	今期 4～6実績見込 (前期比)	来期 7～9月見通し (今期比)	前期 1～3月 実績	今期 4～6月実績見込 (前期比)	来期 7～9月見通し (今期比)				
全体	△0.9	△4.3	-3.4	△4.6	-0.3	11.7	9.7	-2.0	10.3	0.6
製造業	1.5	△7.3	-8.8	△8.0	-0.7	12.5	13.1	0.6	11.7	-1.4
食料品	0.0	△23.5	-23.5	△17.6	5.9	17.6	0.0	-17.6	11.8	11.8
金属製品	9.1	9.5	0.4	14.3	4.8	13.6	14.3	0.7	4.8	-9.5
一般機械器具	0.0	0.0	0.0	△12.5	-12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0
輸送用機械器具	2.9	△11.4	-14.3	△14.3	-2.9	14.7	14.3	-0.4	8.6	-5.7
その他	△2.1	△8.3	-6.2	△8.3	0.0	8.5	16.7	8.2	16.7	0.0
非製造業	△2.7	△2.1	0.6	△2.1	0.0	11.2	7.3	-3.9	9.3	2.0
卸売業	△10.3	0.0	10.3	0.0	0.0	13.8	13.3	-0.5	13.3	0.0
小売業	△1.6	△3.1	-1.5	△1.6	1.5	9.5	6.2	-3.3	4.6	-1.6
建設業	0.0	0.0	0.0	△1.9	-1.9	11.5	15.1	3.6	22.6	7.5
サービス業	△2.3	△4.3	-2.0	△4.3	0.0	11.4	6.5	-4.9	6.5	0.0

## 5. 経営上の問題点及び当面の重点経営施策

○ 経営上の問題点は、製造業、非製造業とも「売上の停滞・減少」がトップですが、半年前と比べるとやや落ち着いてきています。こうした中で、製造業では「原材料高」が徐々に増加している点が、また非製造業では「利幅の縮小」が落ち着く一方で「地場産業の衰退」による消費への影響を懸念する先が増えているのが特徴です。

### ①経営上の問題点

(単位 %)

製造業	08/12月期	09/3月期	09/6月期	09/9月期	09/12月期	10/3月期	10/6月期
売上の停滞・減少	① 43.5	① 55.5	① 61.6	① 55.1	① 61.2	① 56.6	① 54.0
同業者間の競争激化	④ 18.8	③ 19.7	② 26.1	② 27.9	② 31.3	③ 27.9	② 30.7
利幅の縮小	③ 26.8	② 24.1	③ 25.4	③ 23.5	③ 27.6	② 29.4	③ 27.0
原材料高	② 34.8	④ 15.3	⑤ 10.1	⑥ 8.1	⑥ 8.2	⑤ 11.0	④ 18.2
販売納入先値下げ要請	⑤ 16.7	⑤ 14.6	④ 15.9	④ 16.9	④ 15.7	④ 16.9	⑤ 17.5
地場産業の衰退	⑥ 9.4	⑥ 9.5	⑥ 15.2	⑤ 12.5	⑤ 11.2	⑥ 8.1	⑥ 8.0

非製造業	08/12月期	09/3月期	09/6月期	09/9月期	09/12月期	10/3月期	10/6月期
売上の停滞・減少	① 48.0	① 56.9	① 57.4	① 57.0	① 65.3	① 53.5	① 55.1
同業者間の競争激化	② 41.7	③ 36.8	② 39.7	② 37.2	② 38.6	② 39.0	② 38.0
利幅の縮小	③ 35.8	② 40.2	③ 27.3	③ 31.4	③ 28.2	③ 34.5	③ 24.4
地場産業の衰退	⑦ 6.9	⑤ 8.1	④ 12.9	④ 14.5	④ 14.4	④ 13.0	④ 15.1
大手企業との競争激化	⑤ 12.7	④ 12.4	⑤ 9.6	⑤ 10.6	⑤ 11.4	④ 13.0	⑤ 12.7
原材料高	④ 15.2	⑦ 1.9	⑦ 3.3	⑦ 3.9	⑦ 1.5	⑦ 3.5	⑥ 5.4
販売納入先値下げ要請	⑥ 7.4	⑥ 6.7	⑥ 7.7	⑥ 8.2	⑥ 7.9	⑥ 6.5	⑦ 4.4

- また、当面の重点経営施策については、製造業、非製造業ともに収益確保のための「経費節減」と売上げ増のための「販路拡大」が1位と2位を占めていますが、製造業においては、「情報力の強化」や「新製品・技術開発」に代わって「人材確保」が3位となり、同時に「教育訓練の強化」に対する関心も高まっているのが特徴です。

## ②当面の重点経営施策

(単位 %)

製造業	08/12月期	09/3月期	09/6月期	09/9月期	09/12月期	10/3月期	10/6月期
経費を節減する	① 63.8	① 59.9	① 71.7	① 69.9	① 68.7	① 69.1	① 62.0
販路を拡大する	② 51.4	② 56.9	② 54.3	② 57.4	② 55.2	② 53.7	② 53.3
人材を確保する	③ 21.7	④ 19.0	⑥ 8.7	⑤ 13.2	⑥ 8.2	④ 13.2	③ 15.3
情報力を強化する	⑤ 12.3	③ 20.4	④ 17.4	④ 17.6	④ 12.7	③ 19.9	④ 13.9
新製品・技術を開発する	④ 20.3	⑤ 18.2	③ 18.8	③ 18.4	③ 19.4	⑤ 17.6	⑤ 12.4
教育訓練を強化する	⑥ 8.0	⑦ 5.1	⑤ 9.4	⑦ 7.4	⑦ 7.5	⑦ 8.8	⑥ 10.9
不採算部門の整理縮小	⑦ 5.1	⑥ 7.3	⑥ 8.7	⑥ 11.0	⑤ 11.2	⑥ 11.0	⑦ 10.2

非製造業	08/12月期	09/3月期	09/6月期	09/9月期	09/12月期	10/3月期	10/6月期
経費を節減する	① 65.2	① 60.8	① 70.8	① 66.2	① 66.3	① 67.5	① 60.0
販路を拡大する	② 37.3	② 38.8	② 34.0	② 37.7	② 37.6	② 37.0	② 36.1
情報力を強化する	③ 14.7	③ 14.8	③ 11.0	③ 11.1	③ 10.4	③ 13.5	③ 15.1
宣伝・広告を強化する	⑥ 8.3	④ 9.6	④ 9.6	⑤ 9.2	④ 9.4	④ 9.5	④ 9.3
人材を確保する	④ 12.3	⑤ 8.1	⑤ 9.1	⑤ 9.2	⑤ 7.9	④ 9.5	⑤ 8.8
教育訓練を強化する	⑤ 8.8	⑤ 8.1	⑥ 8.1	④ 10.6	⑥ 6.9	⑥ 7.0	⑥ 8.3

## 6. 今回の特別調査—中小企業が金融機関に期待すること

- 今回の特別調査の結果は以下のとおりです。当金庫は、この結果を真摯に受け止め、これからも地域経済の担い手である中小企業や個人事業者のみなさまのニーズやご要望に的確にお応えするとともに、ご相談していただきやすい態勢作りにも努め、みなさまが抱えておられる課題や問題点を的確に把握し、必要に応じて専門家やコンサルタントを派遣するなど適切なサポートができるよう努力してまいります。

設 問		第 1 位		第 2 位		第 3 位	
問 1	融資姿勢に期待する事【複数3つまで回答】	資金供給の安定性(取引継続)	29.2	プロパー融資	27.7	担保に過度に依存しない融資	11.9
問 2	渉外担当者等へ期待する事【複数(3つまで)回答】	領域を問わないさまざまな情報の提供	40.4	資産活用コンサルタント	38.1	財務改善コンサルタント	35.4
問 3	IB利用状況	窓口に行かなくてよいため利用している	30.0	時間を気にせず取引できるため利用	18.7	メリットを感じないため、利用しない	16.6
問 4	金融機関以外の相談相手【複数(3つまで)回答】	公認会計士・税理士	70.5	同業者団体	21.2	商工会議所・商工会	20.1
問 5	ゆうちょ拡大への対応	ゆうちょでローンを利用する予定はない	54.1	もともと預入はなく、今後も使わない	50.6	ゆうちょへの預入額を変える予定はない	32.2

以上

くれしん景況レポートに関する問い合わせはこちらまでどうぞ！  
 呉信用金庫 経営企画グループ TEL 0823 - 25 - 6822 FAX 0823 - 25 - 9925